

資料 2 (会議後修正)

P4「富里市の方向性」⇒「策定に関する基本的な考え方」に修正しました。

P4「地域公共交通を担う運転手不足などの社会情勢や」を追記しました。

「富里市地域公共交通計画」の策定について

～持続可能な公共交通を目指して～

〈現計画期間〉

令和4年度～令和8年度

〈次期計画期間〉

令和9年度～令和13年度



富里市地域公共交通会議



富里市地域公共交通会議

「富里市地域公共交通計画」の策定について

地域公共交通計画とは

- 「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすもの
- 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定計画

(参考:国による「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(理念編)第4版(令和5年10月)」より)

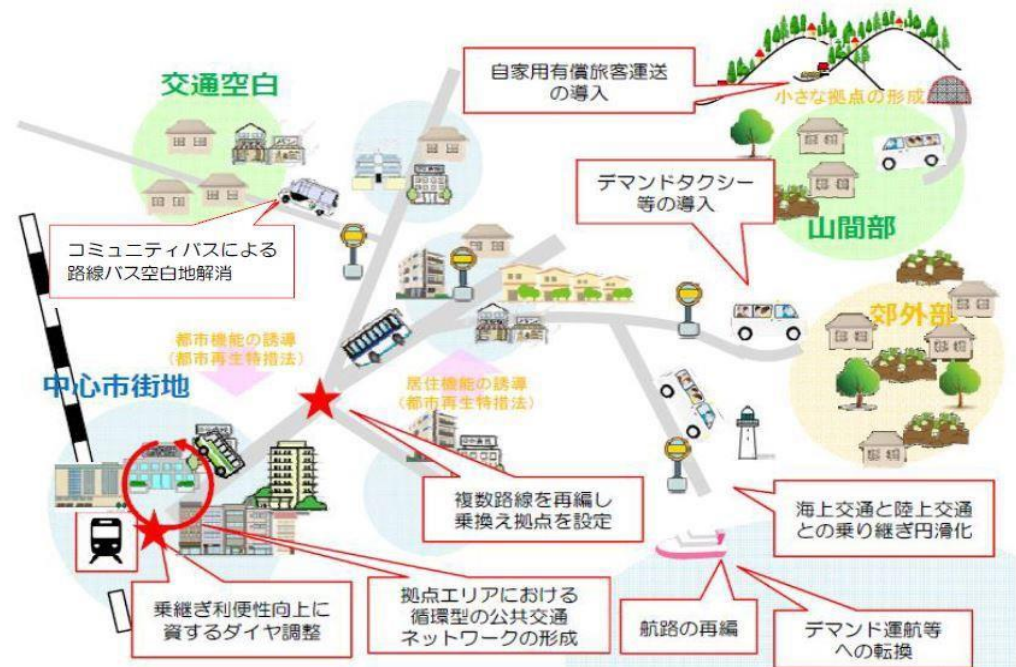
(制度の背景)

地方公共団体が中心となり、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークの再構築が求められている

- ・日常生活等に必要不可欠な交通手段の確保等
- ・まちづくりの観点からの交通施策の促進
- ・関係者相互間の連携と協働の促進等



公共交通の利便性・効率性向上を
図り、持続可能な公共交通を形成



イメージ(例)



地域公共交通計画作成の主なメリット(運用の手引き要約)

① 地域公共交通政策の「憲法」

公共交通計画は、「自分たちの地域ではこのような考え方で公共交通ネットワークを整備します」という宣言文
地域としてどのような考え方で公共交通を維持・発展させていくのかを明確に示す計画であり、住民からの要望への対応などへの根拠として機能する。

② まちづくり施策や観光施策との連携と協働の強化

交通単体ではなく、まちづくりや観光施策と一体的に取り組むことで、相乗効果が生まれ、事業の効率化や地域活性化につながる。

③ 関係者間の連携と協働の強化

行政、交通事業者、地域団体などが協議を通じて共通認識を持ち、役割分担や行動計画を共有することで、課題解決力の向上や人材育成にも寄与する。

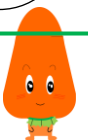
④ 交通機関同士の役割分担の明確化と連携強化

鉄道・バス・タクシーなどを個別ではなく一体として捉え、役割分担や連携を整理することで、効率的で持続可能な交通体系の構築につながる。

⑤ 地域における公共交通政策の継続性

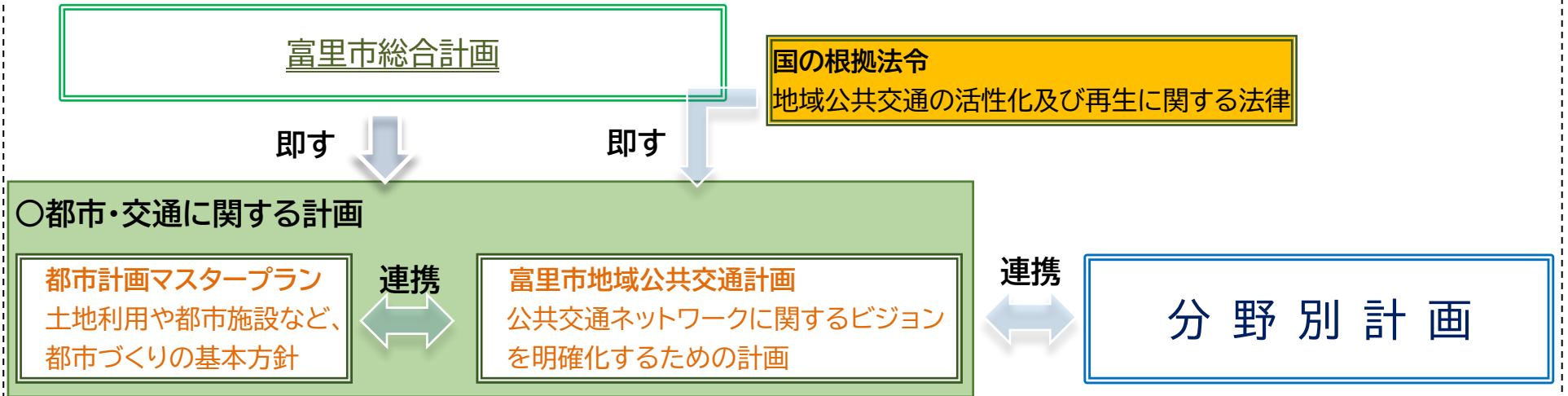
計画に基づく目標管理により、定期的な検証と見直しが可能となり、突発的な状況変化にも早期対応ができる。
また、多様な関係者との協議を経て作成された計画であることから、政策の継続性が確保できる。

(参考:国による「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き(理念編)第4版(令和5年10月)」より)



富里市地域公共交通計画について

■本市における「地域公共交通計画」の位置づけ等



■目指す姿

「持続可能な開発目標(SDGs)」
の達成にも貢献するものとして。



■策定に関する基本的な考え方

少子高齢化や公共交通が不便なことに起因する人口流出の抑止、地域公共交通を担う運転手不足などの社会情勢や今後想定される観光客への対応等を総合的に考え、富里市地域公共交通計画の策定を進めます。

策定に当たっては、国及び市の補助金等を活用し、豊富な専門知識を持つ事業者を公募型プロポーザルにより選定し、効率的に作業を進めます。事業者選定に当たっては、本会議の委員に参画いただく選定委員会を組織し、事業者選定を行います(予定)。

具体的な施策を盛り込んだ

持続可能かつ実効性のある計画を目指します。



富里市公共交通計画(計画期間令和4年度～令和8年度)における計画目標の進捗状況

	評価指標	指標の定義	現況値(令和4年度)	目標値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
目指すべき姿1	年間利用者数	路線バス・高速バス	1,280,770人	1,472,885人	1,445,638人	1,548,461人	1,645,113人	集計中		R7～第2次政策実行計画
		デマンド交通利用者数	8,363人 (総合計画)	10,453人	20,983人	47,688人	52,605人	55,942人		
	公的負担額	公共交通の公的負担額	42,250千円 (第1次政策実行計画)	現状維持	59,063千円	116,504千円	117,438千円	116,369千円		
●地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す。	観光入込客数	市のイベント 未廣農場等	18,116人 (総合戦略)	400,000人	301,336人	396,064人	585,806人	集計中		
	目指すべき姿2	さとバスに対する満足度	4.4%	5.0%						
	●地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す。	市民満足度	デマンドに対する満足度	9.5% (アンケート調査結果)	10.0%	-	-	-	-	
既存ストックの活用			民間送迎車両等による事業数	0件	1件	3件	2件	2件	2件	自家用有償旅客運送(高齢者福祉課に登録)高齢者や障害者をお持ちの方を自家用車で送迎する外出支援サービス ・NPO法人 富里ピークルサービス ・社会福祉法人 大成会 ※令和4年度まで ・NPO法人 みのり福祉会も運営
地域住民の協力による取組		地域住民の協力による取組件数	0件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	日吉台地区へのグリーンスローモビリティ導入に向け、「ひよし地区ささえあい協議体」との協議・住民アンケートを実施(R4年度) R4・5グリーンスローモビリティの研究を実施
目指すべき姿3	認知度	デマンド交通の認知度	33.6%	50.0%	-	-	-	69.50%		R7 後期基本計画市民意識調査アンケート実施(100%-(デマンド交通を知らない・その他・無回答の合計))
●公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す。	モビリティ・マネジメント	乗り方教室の実施	0回/年	1回/年	ふれあい講座 7回 地区説明会 19回	0回	ふれあい講座 4回	0回		R7 公共交通乗り方動画の制作(市内小中学校への配架)
	利用促進	公共交通マップの配布箇所数	0件	50件	0件	公共交通マップ制作 0件	公共交通マップ配架 58件	WEB閲覧に転換 0件		R7 公共交通乗り方動画の制作

富里市地域公共交通計画の基本方針における進捗(取組)状況について

(計画における事業の進捗状況について下表に示す)

目指すべき姿・基本方針	No.	実施施策メニュー・目的	事業の概要	進捗(取組)状況	今後の展開
1. 将来都市構造を支える事業との連携 ・拠点を結ぶ戦略的な地域公共交通の維持・再編と乗換機能の強化検討 2. 広域・地域内移動への利便性向上 ・市域外の鉄道駅、成田空港、医療施設への移動に配慮した生活交通の検討 ・路線バスを確保維持するためのフィーター交通の充実 3. 観光・交流拠点施設との連携 ・計画されている観光・交流拠点施設「末廣農場」と連携した、新たな観光二乗の取り込み	1	民間バスの路線維持・拡充	周辺都市への連絡及び市内の骨格となる路線バスについて、引き続き路線の維持・拡充を図る。	○新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用し、公共交通事業者支援金を交付(R4年度) ○末廣農場への路線バス及び高速バス乗入れの実現(R4年度) ○令和6年4月から公共交通機関の運転手確保及び運転手の就労継続を支援するため、県外から市内に移住し、市が指定する公共交通事業者(正社員)として就労し、本市に定住する意思のある55歳未満の方に対して富里市公共交通確保維持支援金の交付を開始した(令和8年1月末日時点で申請1件)。	○令和6年度より公共交通確保維持支援金の交付を実施しているが、令和8年1月末日時点で申請が1件にげんていことから、引き続き支援制度の見直しも含め、公共交通事業者と連携しながら支援策の検討に取り組んでいく。
	2	さとバスの見直し	市民のニーズ調査結果を踏まえ、新たなデマンド交通に転換する。	○令和4年10月1日デマンド交通へ転換(R4年度)	
	3	デマンド交通の拡充	利便性の向上を目指し、乗降ポイントの増設や運行エリアの拡大などの拡充を図る。また、高齢者に優しい地域交通を目指し、ドア・ツー・ドア方式について実証運行による検証を行う。	○令和4年10月1日デマンド交通へ転換(R4年度) ○市民アンケートにより要望が多かった乗降ポイント(一部市外の駅・病院など)を追加した。 ○令和6年7月より、多くの利用者から要望をいただいていたデマンド交通(キャロリン号)のWeb予約を開始した。 ○令和6年6月に乗降ポイント1箇所追加(10月末時点乗降ポイント187箇所) ○令和7年7月に乗降ポイント2箇所追加(10月末時点乗降ポイント189箇所) ○令和7年12月に乗降ポイント2箇所追加(12月末時点乗降ポイント191箇所) ○令和7年7月から妊婦の方のドア・ツー・ドア利用要件の緩和を実施した。 ○令和8年2月に乗降ポイント1箇所追加(2月末時点乗降ポイント192箇所) ○ドア・ツー・ドア利用実績 令和5年度実績…延べ11,925人 令和6年度実績…延べ12,261人 令和7年度実績…延べ13,357人	○持続可能な公共交通の実現のため、利用者数の推移・利用実態・ニーズ調査、費用対効果等の検証を継続して行う。
	4	交通ネットワークの強化	民間路線バス、タクシー、デマンド交通などの接続ポイントとして、市役所等を交通結節点としての機能強化を図り、一体的な公共交通ネットワークの形成による利便性の向上を図る。	日本大学理工学部交通システム工学科とともに市役所等が交通結節点となるか調査・研究を実施した(R6年度)。	○市役所等の結節点強化の必要性について整理する。
	5	福祉移送サービスの充実	移送サービスや福祉タクシー料金助成が実施されているが、利用条件が限定されているため、条件緩和を検討するなど、公共交通と福祉サービスの連携を図る。	○移送サービスについては、市委託事業者に加え、民間事業者による福祉有償運送サービスも運行している。 ○富里市移送サービス 令和5年度利用者数 延べ978人(利用人数:576人) 令和6年度利用者数 延べ920人(利用人数:554人) ※令和6年10月から運行台数2台から3台体制になり、介護予防に資する事業等を実施する施設などへの送迎を可能とした。 ○福祉有償運送 令和5年度年間利用者数 富里市2事業者 合計137人 令和6年度年間利用者数 富里市2事業者 合計108人 ○福祉タクシー料金助成 令和5年度利用件数…延べ1,098人(利用人数:198人) 令和6年度利用件数…延べ1,017人(利用人数:191人) ○福祉タクシーの指定事業所数 令和5年度末日現在:全体で42事業所(市内4・市外38) 令和6年度末日現在:全体で40事業所(市内4・市外36)	○移送サービスについては、引き続き運行中の福祉有償運送サービスを活用した外出支援策について検討を継続し充実を図る。
	6	スクールバスの見直し	小学校統廃合に伴うスクールバスの運行を継続するとともに、登下校時間帯以外の空き時間の活用方法や混乗の可能性等について検討する。	○統合校の富里南小学校を起点及び終点として、登下校の時間帯のみ業務委託による運行を実施(R4年度～) ○地域公共交通に関する研究会においてスクールバスの多様な輸送(通常時に病院送迎バス・自動車教習所送迎バスなどで運行している民間輸送の協力を得たスクールバスの運行)について検討した(R5年度)。	○現状では混乗は困難であることからスクールバスの運行を継続していく。 ○引き続き児童の推移や輸送方法など調査し、代替の可能性について検討するとともに、今後、民間路線バスが普及する場合は、児童が優先的に
	7	成田空港へのアクセス	成田空港の機能強化に伴い、その効果をまちづくりにも活かすべく、空港利用者、勤務者等の交通手段の確保を目的とし、広域交通手段として空港へのアクセス方法を検討する。	○日本大学理工学部交通システム工学科と成田空港へのアクセス方法について、調査・研究を継続して実施中(R4・6・7年度)。 ○地域公共交通に関する研究会で調査、研究を継続して実施中(R4～7年度)。	○成田空港への乗り入れについては、路線バス、デマンド交通などの様々な交通手段を含め、公共交通事業者と連携し、効果と課題を整理し検討を継続する。
1. 地域の実情に即した公共交通サービスの実現 ・多様な特性を持つ地域が存在するため、住民の意識や実情に合わせた検討 2. 利用促進による潜在需要の掘り出し ・市民との適正な役割分担のもと、持続可能な公共交通とするための効果的な施策の検討 3. 公共交通を活用した貨客混載 ・地域活性化と収益の確保のための新しい施策の検討 ・高速バス荷室の活用	8	地域主体による新たな公共交通の導入に向けた取組	地域の共助による自家用有償運送事業等の検討を行う。	○日吉台地区へのグリーンスローモビリティ導入に向け、「ひよし地区ささえあい協議体」との協議・住民アンケートを実施(R4年度) ○庁内組織である「富里市地域公共交通に関する研究会」や「日本大学理工学部交通システム工学科包括連携事業」において、グリーンスローモビリティの導入について研究を行った(R4・5年度)。	○地域の共助による自家用有償運送事業を検討する。
	9	交通事業者と連携した新たな交通システムの展開	デマンド交通の予約を解消※することを目的に、乗合タクシー事業を検討する。 ※決まった時間に団地にタクシーが停留しており、電話等の予約なしで乗車可能なタクシー(予約なしお迎えサービスを検討)。	○デマンド交通の予約に関する事務負担を軽減するため、令和6年6月26日からデマンド交通のWeb予約を開始した。 Web利用者数 令和6年6月～翌年3月末日時点 延べ6,671人(年度換算8,895人) 令和7年4月～9月末日時点 延べ4,689人(年度換算9,378人) ○日本大学理工学部交通システム工学科と協力して、Web予約システムの使用方法について利便性向上を一層図るための研究を実施した(R6年度)。 ○Web予約について予約期間を電話予約にあわせ統一するとともに、予約の上限回数を設定した(令和7年8月～)。	○団地停留の予約なしお迎えサービスについてはニーズや公共交通への影響等を整理する必要があることから、引き続き慎重に検討を進める。 ○Web予約システムの操作の見直しや表示方法の修正、また、様々な端末での確認を行うなど、Web予約システムの利用利便性の向上を図る。
	10	富里市独自のモビリティサービスの検討	新たな移動システムであるグリーンスローモビリティ等を活用した地域主体の取組を検討する。高速バスの空いた荷物スペースを活用し、市の特産品を都市部に運搬することで、生産者の販路拡大やバス事業者の収益確保を図る。	○日吉台地区へのグリーンスローモビリティ導入に向け、「ひよし地区ささえあい協議体」との協議・住民アンケートを実施(R4年度) ○「地域公共交通に関する研究会」において貨客混載事業の調査・研究を実施した(R4～6年度)。	○「地域公共交通に関する研究会」「日本大学理工学部交通システム工学科包括連携事業」で更なる、調査、研究を継続する。
1. わかりやすい情報提供 ・公共交通の情報を発信し、免許返納後も安心して利用できる環境の提供 2. 地域活性化事業・福祉事業との連携 ・公共交通を利用した買物の付加価値の付与及び福祉施策との連携の検討	11	利用促進のための意識醸成	公共交通を日常的な交通手段の選択肢としてもらうために、利用促進に向けた取組を進める。	○日本大学理工学部交通システム工学科の学生により、デマンド交通のロゴマーク・停留所掲示物を作成(R4年度) ○市内小・中学生から募集したデマンド交通の愛称を、応募293点の中から「キャロリン号」に決定(R4年度) ○市内公共交通の利便性向上と更なる制度周知を目的に公共交通マップ「まるっと富里」を作成し(R5年度)、2,000部を商業施設、公共施設に配架した(R6年度)。	○公共交通の利用者からのフィードバックを収集し、サービスの改善の洗い出しを行う。 ○まるっと富里については、WEB閲覧に転換とするが公共交通の利用周知については継続して実施していくこととする。
	12	モビリティマネジメントの実施	バスの乗り方教室や出前講座の実施など、交通事業者や市民と協働して、地域に公共交通利用の大切さを普及する活動を展開する。	○デマンド交通の地区説明会を開催(19団体:400人) ○とみさとふれあい講座などによる周知(デマンド交通利用方法など) 令和6年度 4団体:参加者71人 ○日本大学理工学部交通システム工学科と公共交通(バス・デマンド)における「乗り方動画」の制作(R7年度)。	○今後も地域公共交通の利用促進のための活動として、とみさとふれあい講座など市民が集まる場において更なる制度周知と利用促進を図る。 ○「乗り方動画」の周知により利用促進を実施。